

## 総務建設委員会 行政視察

(静岡県富士宮市・栃木県芳賀郡)

益子町・富山県富山市)

◆日程 平成23年7月19日～21日

### ●B-1グルメによる商業振興について(富士宮市)

中心市街地の空洞化現象に対応し、平成11年に市役所及び富士宮商工会議所が主催の「中心市街地活性化基本計画策定のためのワークショップ」が開催された。それを契機に参加した市民が自分たちで出来ることはないかと別に会合を重ね、現「富士宮やきそば学会」会長渡邊英彦氏がリーダーとなり、他県にはない特徴のある焼そばに注目した。「富士宮やきそば」を通じて、まちおこしに取り組み「富士宮やきそば学会」を平成12年に設立した。「富士宮やきそば学会」は市からの助成金を受けず運営されている。運営費は「富士宮やきそば」を商標登録することにより商標権を獲得し、それを活用して加入企業より資金を得ている。この活動による経済効果は平成13年度～21年度の9年間で推計43.9億円、「富士宮やきそば」を食べるに約50万人の観光客が訪れたと推定する。

### ●農産物等のブランド化の取り組みに

ついで(益子町)

益子町は農作物による付加価値を高めた商品や地産地消を進め、農村地域の活性化を図るための支援策として平成20年度より農産物を主とした「益子ブランド」に取り組んでいる。農作物などの商品開発や、農作物の特性を活かした実証ほ場などの取組みに対する支援策として、商品開発、実証ほ場、新たな用途開発等5部門を設け、必要事業費の1/2(上限30万円)を補助する事業を実施している。

実例では、益子産いちごを使用した「いちごビール」益子産みそにコラーゲンを入れた「コラーゲン入りみそ」そば粉を材料とした「そばコロッケ」米粉を有効活用した「米粉入り饅頭」等々。3年間の補助金実績は件数で10件、補助総額は29.5万円となっている。

### ●環境事業について(廃プラの再生と富山市エコタウン)(富山市)

廃棄プラスチックのリサイクル工場(株)富山環境整備では、多種多様なプラスチック廃棄物で再製品化している。複雑なプラスチック材料、不完全な分別・洗浄でも再製品化可能とし、リバーズ製品の「パレット」は何度でもリサイクル可能とのことでした。今年度高浜市の廃プラも高浜衛生により集約され、月2回程度約240t引き取られている。異物混合率はAランク(良い)とのことでした。

## 福祉文教委員会 行政視察

(兵庫県西宮市・山口県山口市、

防府市・京都府京都市)

◆日程 平成23年7月11日～13日

### ●被災者支援システムについて(西宮市)

阪神淡路大震災発生後被災者証明書コンピューターを利用し発行して対応した結果、大幅に待ち時間を短縮することに成功した。

その時の経験を生かし、被災者支援システムとしてまとめ、全国の市町村に対して、無償でソフトを提供。

被災者支援システムは①犠牲者・遺族管理システム②緊急物資管理システム③倒壊家屋管理システム④復旧・復興関連システム⑤避難所関連システム⑥仮設住宅管理システムの6つのサブシステムで構成。

阪神淡路大震災当時、市全体の状況を考え、優先順位を決めて支援に当たられたことは、参考にすべき点である。

### ●リハビリ施設「夢のみずつみ村」について(山口市、防府市)

介護保険の対象者の利用する施設として設立され、朝、施設に来られて、その日一日の過ごし方を決め、それぞれがスケジュール(自分の意思で決め

た)行動するため、施設利用者がいきいきとして行動されており、施設内で利用できる通貨「ユーメ」を獲得することを楽しみに活動されていた。

防府デイサービスは、山口と同様の運営をされていましたが、海の近くの施設ということもあり、山口にはなかったクルージング・魚釣りのメニューが追加され運営されていました。

高齢者の方の生きがいをつくり、いきいきと活動されているところがすばらしいところであると感じます。

### ●小中一貫教育について(京都市)

町づくりは、人づくりからということで、明治2年、小学校は、町のお寺で始められ、小学校が町の文化の拠点として位置づけられ、学校文化が専門的・閉鎖的になってきた。

平成16年に学校運営協議会(保護者プラス地域)を設置し、学校運営の協議を行なうようになった。

義務教育9年間を通して、子どもの精神的・身体的な発達段階に沿った独自の教育課程編成を行い、計画的・系統的な一貫教育を地域と一体となり行なうことにより、子どもの個性・能力を引き出していくことを試みている。

子どもの立場にたつて教育を実施し、社会人となった時に活かせる教育という観点に参考になる事例でした。

